

## 国立大学協会総会（31. 1. 23）における島田学長の発言要旨

（会議冒頭、山極国大協会長（京都大学総長）より、昨年来の財務省等に対する反論等について、方針を改める旨の発言あり）

（大西豊橋科技大学長、徳久千葉大学長等の運営費交付金に係る評価方法等に係る発言などを踏まえ）

（島田山梨大学長（以下○）

- 運営費交付金などに係る政府・財務省・経済界などの国立大学に対する姿勢こそ問題であり変えさせなくてはならない。昨年来の山極会長の戦う姿勢を評価しているが、うまくいっていないので改めるというのはおかしい。
- 国大協事務局から紹介のあった読売教育ネットワークにおける塩崎行革本部長の見解でも国立大学がやり玉にあげられており、ほっておけば骨太の方針として実現しかねない。国大協では反論しないとのことだったので私が反論文を送るとともに本学ウェブサイトにも掲載したが、本来国大協でやるべき。
- THEなどの指標がどうこういうのは矮小化した議論。アメリカのGAF Aや中国のBATHに比べてこんな日本でいいのかという危機感から始まっている。日本の企業にもろくなものはなく内部留保を外国に投資している。そのような中で国立大学ががんじがらめにされているのが問題。

（山極国大協会長（以下●）

- 昨年来の財務省等とのやりとりではかなり厳しく反論したが得るものは少なかった。単に反論するのではなくいろいろとやり方を考えなければならない。去年のやり方でついてくる人はほとんどいなかった。
- 私はついていく。
- 島田先生がついてくるのはわかっているが、他はついてこない。研究力をつけるのにはお金が必要なことはさんざん言ったが全然通らない。それを切り崩すのは、いろんな委員会で発言していくしかない。丁寧に話をするによりわかってくれる人も増えてきた。
- 京大は何かとお金がつくからいいが、地方大学はほぼ死にかけている。
- 先方の狙いは国立大学を分断させることにあり、それに乗ってはいけない。国立大学全体の将来構想に沿って改革が図られるようCSTIなどで説明している。
- そのような対応では生ぬるい。塩崎氏の発言に対してもそもそも私の反論文を事務局に送ってあるのだからこの場で配られてしかるべき。見識を疑う。
- 本当に危機的な状況がくれば国立大学あげてむしろ旗を立てて乗り込んでいかなければ

ならないが、今年の予算状況などからすればまだ希望はありそのような状況ではない。

○国立大学は危機的状況であり、あなたは会長としてリーダーシップをとって財務省や内閣府と戦うべきだ。

●そのような形でリーダーシップをとるつもりはない。

○国大協会長としてリーダーシップをとって反論する気がないなら（会長を）やめなさい。

●今の発言は会長の解任動議と受け止める。副会長に議事進行を渡しこの件を話し合ってもらいたい。決議されればすぐにでもやめる。

（室伏副会長、永田副会長等の発言により動議としてはとりあげられず）